

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

# 総合東京病院通信

2019.10

Vol. 84

〒165-8906 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.84

●編集・発行／総合東京病院

## 特集

要介護になる原因疾患とその備え  
認知症、脳卒中、パーキンソン病



神経内科  
脳神経疾患センター  
片山 泰朗

我が国では急速な超高齢化社会を迎え、認知症や脳卒中の患者さんが増加しており、要介護となった原因の1位が認知症、2位が脳卒中であります。ここでは神経内科領域で最も多くみられる認知症、脳梗塞やパーキンソン病について解説し、危険因子に対する備えや早期の治療により、病気の予防や進行の抑制にお役立て頂ければと思います。

### 1. 認知症について

◇認知症とは

認知症とは、生後にいったん正常に発達した種々の精神機能が、慢性的に減退・消失することで日常生活・社会生活を営めない状態をいいます。

◇認知症の症状

認知症の症状として大きく分けて認知機能障害、行動・心理症状(BPSD)、生活障害の3つ

がみられます。認知機能障害として記憶障害(ちょっと前のことを忘れる、同じことを何度も尋ねる)、見当識障害(時間や場所を正しく把握できない)や、理解力・判断力などの障害がみられます。

また、行動・心理症状(BPSD)として不安・焦燥、幻覚・妄想(何かが見えたり、また現実にはない考えにとらわれる)、徘徊、不適切行動・暴言といったものがみられます。生活障害では手足がちゃんと動くのに衣類が着られない、また、ご飯が上手に食べられないといったように生活力の著しい低下がみられ、家庭生活や社会的活動が困難となってきます。

◇認知症の危険因子と対策・治療

認知症の危険因子としては加齢や遺伝的要因など避けることができない因子と高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満など改善することのできる因子があります(表1)。

表1 アルツハイマー型認知症のリスクファクター

・予防的介入につながるものと、予防的介入につなげることが難しい因子に分けられる。

予防的介入が難しい因子	予防的介入が可能な因子
加齢	高血圧
ApoE遺伝子多型	糖尿病
教育歴	脂質異常症
頭部外傷	肥満
性別	食事
	運動・知的活動
	社会的交流

改善することができる因子として他には運動・知的活動、社会的交流がありますが、ウォーキングやジョギングなどの適度な運動(有酸素運



PET-CT装置

## PET-CTがんドック予約受付中

「PET-CTがんドック」 ※総合東京病院の来院申込者

通常料金 108,000円 ➡ 優待料金 88,000円(税込)

※「脳検査」を追加の場合は、110,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学課へ

☎03-3387-5462 受付時間/月~土(日・祝除く)

AM 9:00 ~ PM 5:00

特集

## 要介護になる原因疾患とその備え

—認知症、脳卒中、パーキンソン病—

動)が認知機能低下の抑制に推奨されています。

治療としては認知機能障害に対して症状の改善や進行遅延の目的でコリンエステラーゼ阻害剤、MMDA受容体拮抗薬を服用します。また、行動・心理症状(BPSD)に対しては症状の緩和を目指して非定型抗精神病薬等の服用を行います。

さらに非薬物療法として作業療法、音楽療法、レクリエーションなどを取り入れ、認知機能や身体機能の低下を防ぎ、精神的な安定をもたらすように努めます。

### 1. 脳卒中(脳梗塞)について

◇脳卒中(脳梗塞)とは

脳卒中とは、脳の血管が障害されることで脳組織の損傷が起こり、脳機能障害を生じる病気、「脳血管疾患」の総称です。脳卒中は、大きく3つに分類されます。脳血管が詰まってしまう「脳梗塞」、血管が破れてしまう「脳出血」、そして主に動脈の分岐部にできる脳脈瘤が破裂して起こる「クモ膜下出血」があります。

◇脳卒中(脳梗塞)の症状

脳梗塞や脳出血でよくみられる症状としては、一側の上肢や下肢が動かないという片麻痺の他に、しびれなどの感覚障害、ろれつが回らないなどの言語障害があります。また、物が二重に見える、焦点が合わない、片目だけカーテンがかかったように見えづらくなるなどの眼症状がみられます。他にも小脳が障害されると回転性のめまいが生じて立位が困難になることもあります。

◇脳卒中(脳梗塞)の危険因子と対策・治療

一般的に脳卒中では高血圧が最大の危険因子になります。脳出血も脳梗塞も、いずれも血圧が高い方ほど、発症リスクが高まり、高血圧を治療すると、脳卒中発症リスクは40%程低下することが示されています。また、糖尿病や脂質異常症も脳卒中の危険因子として知られています。その他、心房細動、喫煙、飲酒なども危険因子としてあげられています(図1)。

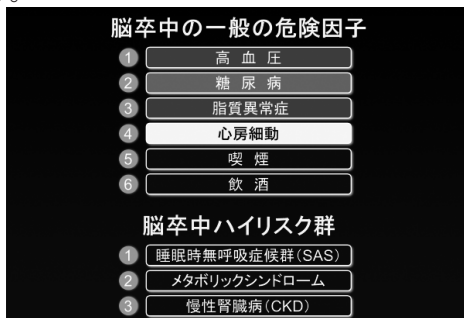


図1

近年は睡眠時無呼吸症候群(SAS)、メタボリックシンドロームや慢性腎臓病の患者さんも、脳卒中を発症するリスクが高いことが分かってきました。したがって、これらの危険因子や疾病をしっかり管理することがとても大切になります。

病院到着後に問診、神経学的診察、血液・尿検査、心電図、胸部X-Pを実施し、頭部MRI・A(CT)を行い血栓溶解薬(rt-PA)を使用できるかを決定します。

### 1. パーキンソン病について

◇パーキンソン病とは

パーキンソン病とは、脳の黒質という場所の変性によって筋肉の動きを上手く調節できなくなる病気です。非常にゆっくりと症状が進むため、はじめのうちは本人は気づいていない場合がありますが、ひどくなると日常生活に様々な支障をきたすようになります。

◇パーキンソン病の症状

無動(動作が遅くなる)、固縮(筋肉のこわばり)、振戦(手足のふるえ)、姿勢反射の障害(姿勢を保てない)などの運動症状が中心ですが、睡眠障害、便秘・頻尿、気分の落ち込みなどの非運動症状とよばれる症状も出現します。

◇病因と対策・治療

はっきりとした原因は不明ですが、内服薬を中心としたさまざまな治療法(対症療法)が存在します。

治療としてはドパミンを補充するドパミン製剤(レボドパ)が治療の中心です。その他にドパミン受容体を直接刺激するドパミン受容体刺激薬や、ドパミンを分解する酵素を阻害する薬剤などがあります。

現時点で根本的な治療はありませんが、適切な内服治療と体操や運動を含むリハビリにより、症状の進行を抑えることは可能です(図2)。

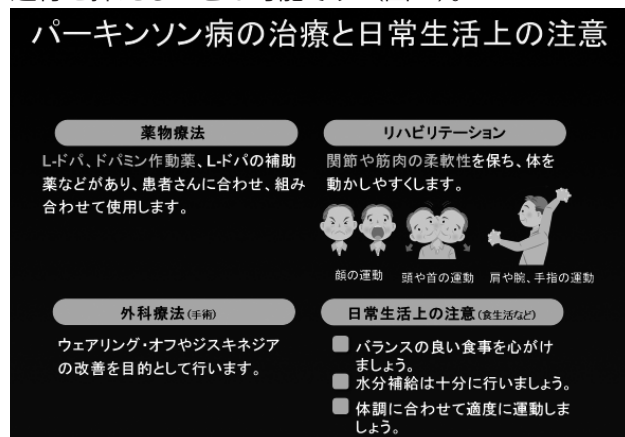


図2